

平成31年2月20日(水)

学習は、その人なりのもの。

もはや40年も前のことだけれど、自分の受験勉強における各教科科目への学習状況を思い出しながら語ってみたいと思う。

まず、はじめに、きっと一番皆さんも苦勞した数学は、中学での数学得意のプライドから抜け切れず、一年生早々の学習につまずいてから、様々な問題を解いて解法を知るという積み重ねを怠り、1年の時にはまったく点数が伸びなかった。2年になってから、「なべつぐのあすなろ数学」の数ⅠAと数ⅡBを、とにかく何度も繰り返しやって、問題を解くパターンを探り当てると得点源になった。このことは、大いに自分を支えることになったが、今考えると同じ内容について1年ですむところを2年もかけているので他教科に影響を及ぼしたと行って過言ではない。三年生からは得意教科になって、現役の国立大学受験では、かなりの得点源になった。浪人してからの私立の文系の受験においては、文系の数学は簡単なもので、立命館や中央など数学で社会の代わりに受けた大学はすべて合格した。

英語は、センスがないので特に苦勞した。授業ごとに本文を丸暗記させられた恐怖が先に立って、受験の仕方についてわかるまで時間が必要であった。これも浪人してからだが、結局、単語と語源の関係や、接頭語とか接尾語等の知識まできちんと手に入れたなら、英文をもっと読めることができたであろう。粘り強く単語を辞書で引きながら学習して時間を使うようになると面白くなって、模試に出る問題も読めるようになり、最終的に受験には間に合ったが、個別具体的な学校への対応まではできなかった。大学に行っても英語や仏語は最後まで肌が合わず苦勞した。

現代文は、特に評論が得意だった。担任が大田和先生だったので、様々な出典と関連文書を提示していただいたおかげで、短いセンテンスにして接続詞による論理の展開の仕方にこだわって書くと、得点力がアップした。文章の展開の中にある具体と抽象の繰り返しをきちんと読むことと、筆者の言いたいことの説明の仕方をどのような道筋でたどるのかを意識するだけで、苦手ではなくなった。国語の教員になったのもこの影響からだといえる。

古文は、文法が大事だが、その後の説話から源氏にかけてのストーリー性や人間の様子と心理状況に興味をもっておこななければならない、全然ピント外れの読み方もあり、出来不出来が極端であった。特に恋愛ものは、からきしだめだった。思い入ればかりで、人の心が読めないのである。これも今も変わっていない。

漢文は得意であった。句形と重要語をピックアップして集中的に学習すると、

とても簡単に得点力が身についた。大学に行っても、漢文が読めたので、日本文学科では、都会の生徒たちからよく教えてほしいという要望が高かった。十八史略や史記、三国志の文章は、凝縮した漢字表現の妙に魅きつけられ、心から楽しんだ。

理科は、地学と物理が得意だった。地学は、級友に天文地質部の地学の専門家がいて、触発されて学習することが得意科目になった原因である。物理は、力学がおもしろく、地学と同様に数学的であるので抵抗感がなかった。逆に言うと、化学と生物は今もって何も分からない。共通1次試験も地学は9割、物理は8割を超えた。

現役は、国立の一期校、二期校の受験しかせず、二期校には受かったが、浪人を選び、浪人して共通1次試験の最初の年となってそのことには囚らずも恐れおののいた。共通一次試験では、英数国理までは、9割を超えたが、社会の日本史と世界史で失敗して8割3分ちょっとしかとれず、二時対策も中途半端で、国立大学にはとうとう行けずじまいだった。1年次に地理をやっていたのをもっと考えて学習しておけば、苦勞せずにできたはずと今になって思う。

受験においては、学校との相性や、赤本をきちんと勉強しているかどうかや、まじめにこつこつ積み上げる学習であるかが最後にものをいうので、総じて、私にとっては苦手な部分ばかりであり、結果はついてこなかったが、もともと理系である頭の構造から、赤緑色弱だったので文系に進まねばならないハンデもあり、最後まで社会の学習が間に合わなかったのが悔やまれる。

しかし、理系の文系だからこそ、その後の仕事にも大いに役立ったし、人との巡り会いにも恵まれたので、ありがたかったと考える。よく、自分の仕事が成功したから自分の仕事を継いでほしいという方々も若干見受けるが、時代と地域と背景の人脈と少しばかりの巡り合わせが重なり合わさったものであるので、一概には一つの結論だけには至らないが、いつも前を向けるためには、勉強は一生するものであることは間違いない。

毎日、必ず、どんな本でも、30ページから50ページを読まないで寝付けないので、そのことは取り柄であるとしてもよいのではないかな。

だから、図書館が好きだ。いくいくは図書館でも作ってしまおうか。

冗談はこれくらいにして、それぞれが自分の特長を生かし、自分の先々を考え、一年前から準備してほしいと考える。

反省は少しでいいので、準備にたくさん時間とお金をかけてほしい。世の中のすべての仕事もまたそんな具合であるはずだから。結論から言えば、インプットとアウトプットの意識的な繰り返しと、学問の構造的な理解と歴史的な背景の知識、到達点から逆算して考える戦力と戦術、論理的思考力と判断力が生かせる学習方法と相対的な学習時間を掛け合わせた結果が受験勉強である。